

令和5年 湖西市議会6月定例会

市 長 あ い さ つ

令和5年6月5日

おはようございます。

本日から、令和5年6月湖西市議会定例会が開催されるにあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

（台風2号関連）

まずは先週末、台風2号に伴う大雨に関し、短時間のうちに2度の線状降水帯の発生により、6月3日未明までの間、当地でも記録的な雨量を観測しました。消防本部の観測地点においては、6月2日の24時間で351mmと、観測史上最高だったとのことです。

今回、土砂災害警戒情報に伴い、市内の969世帯に避難指示を発令いたしました。冠水などによる道路の通行止め10か所以上、土砂の流入による人家への被害2件、その他にも倒木などありましたが、人的な被害は報告されていません。近隣の浜松・豊橋市では亡くなった方もおられ、被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げるとともに、昼夜を問わず復旧作業に当たっていただいた職員関係者の皆様に、改めてお礼申し上げます。

（新型コロナ・5類への移行）

令和2年1月に、日本国内での感染が確認されてから、3年以上、新型コロナウイルス感染症への対応を行ってきています。医療・介護関係者の皆様のご尽力や、市民・事業者の皆様のご協力をいただき、感染拡大防止に努めてまいりました。改めて、長期間にわたるご協力に対し感謝を申し上げます。

湖西市といたしましても、ワクチン接種をはじめ、臨時特別給付金等の支給、消費喚起策ほか、関係機関と連携を図りながら、市民の皆様、事業者の皆様の支えに少しでも資するよう、感染拡大防止措置、経済対策等につき、様々な取組を行ってまいりました。

5月8日から、感染症法において、季節性インフルエンザと同等の「5類感染症」に移行されました。市民生活が一日も早く、以前のような日常、社会経済活動を取り戻せるよう、引き続き取り組んでまいります。

また、先般の臨時議会で補正予算のご承認をいただいた、低所得の子育て世帯の生活を支援するための特別給付金は、申請が不要な対象世帯につきましては、5月30日に給付を行いました。その他の世帯については、6月から申請の受付を開始しております。住民税非課税世帯への価格高騰

対策給付金の支給につきましても、支給に向け準備を進めております。

（こさいの日・こさいウィーク）

昨年、市制施行 50 周年を記念し、5 月 31 日を「こさいの日」とする宣言を行いました。今年は、5 月 31 日を含む 5 月 24 日から昨日 6 月 4 日までを「こさいウィーク」とし、期間中に、市内モノづくり企業により、市内すべての中学校において、中学生への特別授業を行っていただきました。初めてご参画いただいた企業もありましたが、体験ブースなど、生徒たちの楽しそうな笑顔が、印象的でした。

市内飲食店・小売店、38 店舗のご協力により、市公式 LINE を活用した「531 円割引」「531 円限定商品」など多くのアイデア商品を企画提供いただき、盛り上げていただきました。

また、以前は 10 月に行っていました「湖西市表彰」を今年からは、「こさいの日」である 5 月 31 日に行い、消防・社会福祉・教育分野へのご寄付など各分野で湖西市の発展にご尽力された、7 名の皆様を表彰させていただきました。また、浜名学園に対し、ご寄付を続けていただいております 2 名の方に、感謝状をお贈りさせていただきました。改めて、長年のご功労に、心からお礼を申し上げます。

さらに、市制 50 周年で誕生した、うなぽんのお誕生日が、5 月 31 日ということで、市内の保育園・こども園や、NPO 主催のイベントでは、お誕生会も、行っていただきました。どこに行っても、子どもたちから大人気で、お手紙や歌などのプレゼントをいただき、うなぽんも、嬉しそうでした。

来年以降も、「こさいの日・こさいウィーク」を、先人の心を受け継ぎ、誰もが愛着を持ち、湖西市の魅力を、市内外に PR する機会としていきたいと思えます。

（「職住近接」：持続可能なまちづくり ～ 新規・継続事業等）

さて、令和 5 年度も引き続き、湖西市総合計画にも掲げる 4 つの柱を基に、「職住近接」による持続可能な発展を推進してまいります。また、デジタル化の推進やカーボンニュートラルへの取組をはじめ、社会経済情勢の変化に対し、常にアンテナを高くし、時流に即した取組を進めてまいります。令和 5 年度の主な事業につきまして、いくつかお話しさせていただきます。

①（安全・安心、医療福祉）

市民の皆様が安心して日常を送るためには、医療体制の充実や、災害に強いまちを地域の皆さんと共に創り上げていくことが重要です。医療面においては、コロナ禍において、いつでも安心して必要な医療が受けられる医療環境のありがたさを、改めて強く感じたところです。昨年11月、浜松市・浜松医療センターと、湖西市・湖西病院の間で、「持続可能な地域医療提供体制の確保に関する連携協定」を締結し、

- ・高度急性期医療と回復期患者の相互受け入れといった、病院間における機能分化、

- ・外来診療医や研修医、助産師の派遣等の人事交流

- ・看護師の確保・育成などの相互連携

など、安全・安心で質の高い医療提供体制の確保に努めてまいります。湖西病院における助産師外来の設置については、5月には、トライアルとして浜松医療センターから助産師を派遣していただき、外来の見学や実際の妊婦さんへの対応など、具体的に調整を進めているところです。浜松市立看護専門学校への、湖西市卒の創設については、令和6年度入学者からの受け入れについて、現在、浜松市と協議を進めており、具体的な内容が決まり次第、改めてご説明させていただきます。

また、市内での医療提供体制についても連携の強化を進めています。3月に、浜名医師会・浜名病院及び湖西市において、持続可能な地域医療提供体制を確保するための連携協定を締結したところであり、

- ・夜間・休日の救急受入れ体制の役割分担の明確化

- ・3者間の機能分化

- ・医療従事者の派遣等人事交流

などを推進してまいります。連携協定の目的を達成するための会の名称を「Medical-Network こさい（略称「Medi-Net こさい）」とし、具体的な協議を進めているところです。

防災の面においては、津波災害の防止・軽減を目的とした「津波防災地域づくり推進計画」の策定に向け、引き続き有識者等による津波防災対策についての議論を重ねています。先日、5月28日には、高校生や子育て世代の方、民生委員、自主防災会、外国籍の方や公募で応募された方、54名のご参加をいただき、第1回意見交換会を新居地域センターにて開催したところです。6月からは沿岸域を7つのブロックに分けて、丁寧な意見

交換を行い、お寄せいただいたご意見等も参考に、未来を見据えた計画を策定いたします。

②（子育て・教育の充実）

今年４月、社会全体でこどもの成長を後押しするため、国に「こども家庭庁」が設置されました。湖西市においても今年度、新たに「こども未来部」を創設し、「育ちの応援ステーション」として、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を進めております。

閉園した新所幼稚園を、発達相談支援機能を有する「地域子育て支援拠点」としての整備を進めるとともに、妊娠・出産時のホームヘルパー費用の助成を行うなど、新たな支援も行っています。また、放課後児童クラブなど各教育施設の整備等を、引き続き計画的に行っています。

また、保育料につきまして、今議会でご審議をお願いしておりますが、従来、第２子半額、第３子無料だったところを、第２子以降無料とさせていただきたいと思っております。国の言う「異次元の少子化対策」の動きも注視しながら、特に、多子世帯への支援拡充について、保育料に加え、給食費などについても検討を行っておりますが、基礎自治体として出来る限りの支援を行い、移住定住、職住近接に繋げていきたいと思っております。

小・中学校の再編につきましては、子どもたちの望ましい教育環境を第一に考え、令和３年２月の総合教育会議以降、子育て世代、学識経験者、地域の方々などと、意見交換会やアンケートなどを重ねさせていただきました。いただいた意見やアンケート結果などを踏まえ、５月２９日に、本市の小中学校再編方針をとりまとめさせていただきました。以降も、保護者の方々から、早期の学校再編の実行を望むお声も、いただいております。これから、具体的なスケジュールを含め、子どもたちの教育環境の整備に努め、加えて、跡地活用など地域のコミュニティ機能も、考えてまいりたいと思っております。

また新たに、スポーツによる地域活性化として、部活動の地域移行へ対応するための検討組織を立ち上げるとともに、その中枢となるジュニアスポーツクラブにおいては、従前の６競技から本年度より新たに１競技を追加しました。更なる種目拡大と助成拡充による、参加促進を図っています。また、地元のデンソーポラリスに加え、静岡ブルーレヴズ、三遠ネ

オフェニックス、ジュビロ磐田など、プロスポーツ団体等との連携を一層強化していきます。まずは初の試みとして、ゴールデンエイジへのための栄養教室を静岡ブルーレヴズのご協力をいただき、本年6月から10月にかけて全5回開催いたします。今後も、スポーツを「する」「観る」「支える」の多角的な観点から、ビルドアップを行ってまいります。

③（産業振興）

モノづくり人材育成、産業ネットワークの構築につきましては、3月に「KOSAI モノづくり産業振興ビジョン」を策定し、①モノづくり人材の育成、②企業力の向上支援、③支援体制の強化の3つの基本方針を定め、第1次～3次産業すべてにおいて、モノづくり産業の持続的発展と職住近接を目指し、取組を進めているところです。

令和5年度の湖西少年少女発明クラブは、過去最多の99名に参加いただいており、中学生コースも2年目を迎えました。豊田佐吉翁の「報恩創造」の精神を継承し、モノづくりのまち湖西の将来を支える人材として、大変心強く感じています。

また、市制50周年記念として拡充した「佐吉の郷 スタートアップ支援事業」の推進により、事業者の空き家・空き店舗等を活用した創業支援、新たな事業、製品開発等に取り組環境を整備するため、クラウドファンディングを活用した資金調達の支援のほか、6月1日に共同で発表させていただいたように、遠州地域の他市町や、ソーシャル・エックスなどとも連携し、引き続き創業支援や、賑わいの創出、地域課題の解決に努めてまいります。

モノづくりを進める湖西市にとって、カーボンニュートラルへの取組、湖西市版ゼロカーボンシティの実現は欠くことのできない取り組みです。オール湖西での省エネルギー推進や再生可能エネルギー普及等による、

「湖西市版ゼロカーボンシティ」の実現を目指すため、3月に、高校生をはじめとする市民や企業、学識経験者の方々による「湖西市ゼロカーボンシティ推進協議会」を立ち上げました。令和5年度内に「地球温暖化対策地方公共団体実行計画（区域施策編）」を策定し、CO2削減等に向けた具体的なロードマップにより、持続可能な未来に向けて、進めてまいります。

また、3月の補正予算でお認めいただいた、中小事業者等に対する省エ

エネルギー設備導入支援事業を創設し、５月から申請受付を開始したところです。そのほか、再生可能エネルギーの普及促進や、公用車への電気自動車導入をはじめとする、行政におけるゼロカーボン化も着実に推進し、CO2 排出量削減を進めてまいります。

令和２年から事業を開始しました浜名湖西岸土地区画整理事業においては、昨年、「KOSAI Battery Park」と命名され、進出企業の一つであるプライムアース EV エナジーの工場建屋の整備も進み、操業に向けた準備が整いつつあると聞いております。今後の、BEV（バッテリーEV）工場の整備をはじめ、このエリアが次世代の車載用電池の一大生産拠点となることで、本市のモノづくりがさらにグローバルに展開されるよう、着実に取り組んでまいります。

市内の南北軸を担い国道１号バイパスへ通じる、いわゆるバッテリーロード（都市計画道路 大倉戸茶屋松線）におきましては、今年９月の開通を目指し工事は最終段階に入っています。

三遠南信自動車道、東名・新東名高速道路及び名豊道路と広域道路ネットワークを形成する「浜松湖西豊橋道路」は、国土交通省において「都市計画・環境アセスメントを進めるための調査」が実施されています。県西部地域・東三河の産業発展、緊急輸送路としての防災機能の強化、三遠南信地域連携のための必要不可欠な道路ですので、近隣自治体と引き続き連携し、早期事業化を求めてまいります。

また、浜松湖西豊橋道路のインターチェンジ周辺の土地利活用の検討、産業界からの喫緊のニーズに対応するための開発可能性調査、湖西市立地適正化計画・居住誘導区域の宅地開発を促進するための、土地提供者や開発事業者への奨励金（インセンティブ）制度や、市街化調整区域における優良田園住宅制度導入など、職住近接に繋がる宅地増加政策を、引き続き進めてまいります。

④（観光・シティプロモーション）

新居弁天地域の一体的な再開発についても、実施事業者が決定し、「浜名湖パークビレッジ（仮称）」も動き出しています。夏の海水浴や冬のブリ丸・牡蠣小屋に加え、キャンプ場やドッグラン、足湯、地元特産品マルシェなど、年間を通じた集客・にぎわいの創出に向け、市内外から多くの人が集う観光拠点になるよう事業者と連携して整備を進めていきます。観

光拠点から、点と点を舟運や自転車、天浜線などの公共交通などにより、線や面で繋げられるよう、今年の東アジア文化都市、来年の浜名湖花博20周年事業などとも連携し、引き続き地域の方々、浜松市や県、DMO、観光協会などと力を合わせ、進めてまいります。

冒頭でもお話したとおり、新型コロナウイルスは、感染症法の取扱いが「5類感染症」に変更されました。文化芸術、社会教育、自治活動等の拠点として、これから新居地域センターのバリアフリー等改修工事が始まります。文化協会など利用者の皆様のご意見を極力反映させていただき、舞台やステップ・スロープ、トイレなど、利用者の皆様に喜ばれ、使い勝手が良くなり、皆様に笑顔、活力が溢れるよう進めてまいります。

（DXの推進）

DXの推進については、水道事業において、全国初となる水道スマートメーターを令和9年度までに、市内の全戸に拡大してまいります。今年の6月から10月にかけては、知波田・入出地区において、これも全国初となる、「時間帯別料金制度（いわゆるオフピーク料金）」の実証実験を行い、水道料金の値上げを極力抑制し市民サービスの向上に繋げ、行政インフラの効率的な維持管理、コスト削減にも資するよう、進めてまいります。

また、マイナンバーカードにつきましては、5月21日時点で、市民の93.3%の方から申請をいただき、79.8%の方に交付を行っております。電子申請メニューの拡大をはじめ、より一層、「行かない・書かない市役所」によるサービス向上を進めてまいります。

今年は、コロナ禍からの、行動制限等もなくなり、地域のお祭りはじめ各種イベントや、社会経済活動を取り戻していく、地域の笑顔が増える、そんな年になってほしいと、日々、感じております。合わせて、湖西市の従来からの課題である、「職住近接」を推進し、持続可能な未来に向けて、人口減少対策を進めてまいりたいと思います。

さて、本定例会に提案させていただきます案件は、補正予算など、合計18件でございます。皆様方におかれましては、引き続きの、建設的かつ前向きなご提案やご議論を改めてお願いし、私のごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。